

2018年度ユニーク卒論

総合政策 学部

担当教員名	客野 尚志
論文執筆者名	林 佑亮
論文の題 (テーマ)	地方都市における音環境の現況調査とサウンドスケープマップの作成に関する研究 —兵庫県丹波市柏原町を対象とした現地調査を通して—
簡単な内容 (概要)	本研究は、地域景観の向上、活性化を目指して、まちの音風景の現状を丹念なフィールドワークにより明らかにした研究である。兵庫県丹波市柏原地区において、本学部と協定を結んでいるまちづくり団体、行政等の支援を得て、地域の音を歩いて拾う“サウンドウォーク”、またICレコーダーを用いた音の定点観測等を実施した。その結果、地方都市においても多様な音風景が存在し、それは観測場所や時間、またイベント等の有無により大きく変化し、まちの生活や風景を彩るものになっていることが明らかにされた。そして、これが今後のまちづくりの素材になりえることを提示した研究である。
推薦の理由	<p>上記のようにこの研究は、まちづくりや都市計画の現場で顧みられることが少ないまちの音に着目し、それを丹念かつ複数回のフィールドワークをとおして明らかにした研究である。その着目点もユニークで、さらに長時間にわたる調査にも意欲的に取り組んだ研究といえる。その結果、地域の音風景の多様性を描き出すことに成功し、特に普段は音の種類が豊かでなく、一部の自然音と人工物を中心として構成される単調な音風景が、イベント時には一気に豊かなものになり、賑わいの風景を作り出していることを明らかにした。このことは、まちの活性化を目指して地域が実施している各種イベントが、来訪者の増加や経済的な効果を生み出すだけでなく、まちの景観を豊かにするという役割を果たしていることも明らかにした。</p> <p>調査は現地のまちづくり団体の協力を得て実施され、その上、研究を通して得られた結果について、2019年2月1日に実施された活動成果発表報告会において、地域住民や行政職員、本学教員の前で発表している。これは研究の成果の地域への還元を意図したものであり、ハンズオンラーニングを通して、地域の協力の元に得た学術的成果を地域に還元することにもつながった。</p> <p>研究自体には荒削りな部分もあるが、意欲的で、今後の発展の可能性にも富み、また地域への貢献につながるものであることから、本論文をユニーク賞にするところである。</p>